



鹿児島ユナイテッドFC×離島

2015年にJFLのホームゲームを奄美市で開催して以来、航空会社「日本エアコミューター」ご協力のもと、スクールコーチが各離島を訪れてのサッカー教室を開催しています。逆にサッカースクールに通う県本土の生徒たちが夏休みに離島を訪れ、離島の文化を体感する企画も毎年行っています。今年はシーズン前のキャプを奄美市で開催して、地元の人たちと交流を深めました。また園田卓馬選手が3歳まで奄美大島の瀬戸内町で生まれ育ったことから、瀬戸内町の観光大使に任命されました。こういったクラブとしての活動を通して、鹿児島のアイデンティティである離島の魅力を鹿児島自身と全国に向けて発信することを目指しています。

活動場所 : 奄美大島を始めとする県内各地の離島

取組テーマ : 交流人口・関係人口の増加

協働者 : 企業／行政／地元のサッカー関係者

協働者名 : 奄美大島サッカー協会（奄美市以外の離島も含めたサッカー協会です）

活動で工夫した点

当初は日帰りでサッカー教室だけを行っていましたが、1泊することで地元の方々と交流したり、名所を観光する機会を得られるようになりました。

活動で大変だった（苦労した）ポイント

スケジューリングです。鹿児島ではホームゲーム時にもスタジアムでサッカー教室を行っているため、シーズン中に離島へ行けるのはアウェイ戦の時のみ。そのため、他の事業に比べるとかなり早い段階から打ち合わせる必要があります。それでも離島にはつきものの台風が迫ると航空便は欠航となるむずかしさがあります。

クラブや地域の活動後の変化

現地の指導者の方は「いつもと違う目線で教えてもらえる貴重な機会」と仰って下さっていますし、子どもたちはプロのコーチとの時間をとても楽しんでくれています。1回2回で何かが変わるわけではないですが「鹿児島ユナイテッドFCが自分たちのクラブだ」と地元の人が少しずつ感じている印象は受けます。



協働者の声

すべては島の子どもたちのためです。2015年にJFLの試合を行った時に、生で観るプロのプレー、そして間近で聴くプレーの音はやはり島の人たちにとってインパクトがあった。今年はキャンプで子どもたちにプロサッカー選手を間近で観てもらったし、サッカー教室も開いてもらい、プロを「私たちのもの」と感じられた。自分たちはそのために地元の協力を募って、人と人をつなぐ役割を果たすために尽くしていきたいです。（奄美大島サッカー協会事務局長 新納太志さん）

参加者の声

コーチ「島は練習だけでなく、試合もいつもと同じところと対戦する環境です。だから、いつもと違う目線で教えてもらえるのは、貴重な機会です」。子どもたち「プロの技術を間近に感じる事ができました」「プロサッカー選手を現実に感じる事ができました」

活動の「ここぞ!」というPRポイント

クラブの活動を通じて、お互いが鹿児島の一員であること（ユナイテッド感）を実感し、魅力を知り、訪問するきっかけとなることを目指しています。

補足

ひと口に「離島」と言っても、種子島と屋久島、奄美大島と喜界島、沖永良部島と与論島と、島ごとに異なる風土があり、歴史があります。南北に長い鹿児島県のも様な人たちを、クラブの活動を通して一体感を醸成すること。それはクラブスローガン「鹿児島をもっとひとつに。」に沿ったものでもあります。